280
P U
1

¥600 ¥6.0.0

歐洲政情研究資料(第七輯)

「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國建國史

外務省歐米局第二課

欧二
7
外史

調一0231

0440

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國建國史

目次

第一　緒論——民族、人文、領土……一
第二　「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國建國史……五
第一期　中世ヨリ近世初ニ至ル迄ノ民族不統一ノ時代……五
（イ）「スロヴエーヌ」人……六
（ロ）「クロアート」人……七
（ハ）「セルブ」人……八
第二期　第十九世紀ニ於ケル情勢……一〇
（イ）　塞地亞ノ活動……一〇
（ロ）「クロアート」人ノ活動……一五
第三期　第二十世紀初頭ヨリ大戰迄……一六

外務省調査部報告書
門 | 類 | 項
2.8.0
番号 PU-1
受入番号 552
受入年月日

外務省
歐2—7
圖書館
41.7.27

調—0231
0441
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(イ) 第二十世紀初頭ニ於ケル塞比亞……一七
(ロ) 墺洪國内ノ「クロアート」人……一八
(ハ) 「ボスニア」「ヘルツエゴヴィナ」ノ併合……一九
(ニ) 其後ニ於ケル墺洪國ノ壓迫的政策……二二
(ホ) 伊土戰爭……二四
(ヘ) 巴爾幹戰爭……二五
(ト) 「サラエヴォ」ノ暗殺事件……二九
第四期 大戰以後……三四
(イ) 「ユーゴー・スラヴ」王國ノ獨立的建設……三四
(一) 「クロアート」國ノ獨立……三五
(二) 「ユーゴー・スラヴ」王國ノ成立……三九
(ロ) 憲法議會開設……四〇
第三 結論——内治、外交及經濟ノ現在及將來……四五

「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國建國史

(在佛外務省在外研究員 寺崎太郎報告)

第一 緒論——民族、領土、人文

「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國ハ舊墺洪國ノ壞滅ニ當リ「ハプスブルグ」家ニ屬セシ「ユーゴー・スラヴ」地方ト塞比亞及ヒ黑山二王國トノ合併ヨリ成リ千九百十九年十月十日ノ「サンゼルマン」條約及千九百二十年六月四日ノ「トリアノン」條約ニ依リテ其國際的地位ヲ確立シタリ

「ユーゴー・スラヴ」又ハ南「スラヴ」ノ語ハ十九世紀後半ニ其語源ヲ發シ主トシテ政治上ノ理由ヨリ「ブルガリア」人ヲ除外シテ「セルヴ」「クロアート」及「スロヴエーヌ」人ヲ總稱スル通說ノ如シ(Franco Colbian, Les Yougoslavres. II ème édit. P. 15 et suiv.)

「ユーゴー・スラヴ」ノ人口ハ千四百萬以上ニ上リ居レルカ其領土内ニ於ケル人口分布狀態ハ次ノ如シ

調一0231
0442
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調—0231

「セルビア」地方	四、四五六、〇〇〇
「モンテネグロ」地方	四三五、〇〇〇
Voivodine 地方	二、六七五、〇〇〇
「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」地方	一、八九八、〇〇〇
「ダルマチア」地方	六四五、〇〇〇
「クロアート、スラヴォニア」地方	二、六二一、〇〇〇
「スロヴェニア」地方	一、六一〇、〇〇〇
合計	一四、三四〇、〇〇〇

右人口ノ中七割五分以上ハ「ユーゴー、スラヴ」人ナルカ「ヴォイヴォディナ」及北「セルビア」ニハ「ルーマニア」人「セルビア」ノ南西及「モンテネグロ」地方ノ南ニハ「アルバニア」人若干アリ又右旗洪國地方ニハ獨逸人及洪牙利人各五十萬人又「マセドニア」及東部羅比亞ニハ七十萬ノ「ブルガリア」人存在シ居レリ

言語上ヨリ之ヲ見ルニ「セルビア」族ト「クロアート」族トノ間ニハ何等ノ相違ナク只前者カ露西亞人ト同シク「シリル」文字ヲ用フルニ對シ後者カ伊太利人ト同シク拉典文字ヲ用フルノミ

又宗教上ヨリ見レハ彼等ヲ「オルソドックス」雖馬「カトリック」回々教ニ三大別スルコトヲ得ベシ「ユーゴー、スラヴ」人カ基督教ヲ奉セルハ第十世紀ニ彼等カ「スラヴ」ノ使徒 Cyril ト Methodius ニ依リテ改宗セラレタル後ニシテ (Pièrre de Lanux : La Yougoslavie P. 13 et suiv.) 之ヲ人口則ニスレハ「オルソドックス」四百八十萬人(羅比亞ノ大部)「カトリック」四百五十萬人(「クロアート、スラヴォニース」ノ大部)回教徒五萬人並ニ新教徒猶太教及猶太苦行派 (Nazaréens) ノ信者若干アリ然レトモ此宗教上ノ差異ハ「ユーゴー、スラヴ」ノ三族間ニ何等大ナル溝渠ヲ穿チタルコトナク其事柄ハ彼等ノ間ニ「信心ハ違ッテモ兄弟ハ兄弟」"Brat je mio koje veré bio" ノ諺ノ存在スルニ依リテモ知リ得ベシ (F. Civiétisa. op. cit. P. 17.)

又錄ニ今日「ユーゴー、スラヴ」ノ領土ニシテ幾ニ墺洪國ニ屬シタル地方ヲ北ヨリ南ニ順次之ヲ示セハ次ノ如シ

(イ) 南「イストリア」地方(「ドラーヴ」河「ミュル」河ノ右岸)

(ロ) Carniole 地方(「サーヴ」河ノ兩岸)

(ハ) 「ダルマチア」地方

「ダルマチア」地方ニ付テハ千九百二十年十一月十二日ノ「ラッパロ」條約ハ「フィウメ」ヲ獨

立國トシ之カ代償トシテ伊太利ニ與フルニ「ザラ」(Cuno, Baccugnazzo 及 Diola ノ一部分ヲ以テシ「ダルマシア」海岸島嶼ニ關シテハ之ヲ伊國ト「ユーゴー・スラヴ」トノ間ニ分配シ前者ハ「フイウメ」ノ咽喉ヲ扼スル Cherso, Lussin ニ二島ト「アドリアチック」海群島中策戰上ノ要地タル Lagosta 及 Pelagosa ノ二島ヲ得ルコトトナリタリ

(三)「クロアート・スロヴアニア」及「シミリア」地方

右ノ中「シミリア」地方トハ「サーヴ」河「ダニューヴ」河ノ合流地點地方ヲ指稱ス

(ホ)「ヴオイヴオデイナ」地方

Banat ノ西南地方ニシテ Cemesvar, Batalica 及 Baranya ヲ含ム舊洪牙利領ナリ「バツエカ」ハ「ダニューブ」ト Cikna 河ニ挾マレタル地方ニシテ「スポチイツア」「ソムボール」及「ノヴイ・サド」等ノ都市ヲ有シ又「バラニヤ」ハ Harkany-Villney, Moloves ヲ劃スル線ノ南部地方ナリ

(ヘ)「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」地方

右地方ノ中「イストリア」「カルニオール」「ダルマシア」ハ元ト墺太利ニ「クロアート・スロヴエーヌ」及「ヴオイヴオデイナ」ハ洪牙利ニ屬シタル地方ナリ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ハ千九百八年ニ墺洪國ニ合併後其「コンドミニユウム」ヲナシ居リタリ「セルブ・クロアート・スロ

ヴエーヌ」國ハ右ノ外伊 Corinthic 南部ヲ領有スル豫定トナリテ「サン・ゼルマン」條約第四十九條ニヨリテ該地方ノ所屬國ハ人民投票ニヨリテ之ヲ定ムベキコトト規定シタルカ右人民投票ハ千九百二十年十月十日ニ行ハレタル處其結果ハ豫期ニ反シテ「スロヴエーヌ」人ノ多數ヲ占ムル右地方ハ却テ墺太利ヲ選フニ至レリ這ハ農民カ經濟上種々ノ配慮特ニ「ユーゴー・スラヴ」ニ於ケル强制徵兵ヲ忌ミタルニ因ルトイフ

第二　「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」王國建國史

第一期　中世ヨリ近世初ニ至ル迄ノ民族不統一ノ時代

紀元三世紀ノ頃羅馬人ハ巴爾幹半島ニ散在セル「イリリア」人及「ケルト」人ヲ征服シタリシカ後「ビザンス」ノ勢力之ニ代リ以テ中世ニ及ヘリ (Pierre de Lanux : Op. cit.) 此ノ間「カルバート」及南露平原ヨリ出テタル「セルブ」「クロアート」及「スロヴエーヌ」人ハ特ニ五世紀及七世紀ノ交南下シ來リ先ツ「モンテネグロ」ノ地ニ不完全ナカラ「ゼタ」(Zeta) 王國ヲ建設セリ其名ハ異レトモ彼等ハ共ニ「スラヴ」大家族ノ分枝ニ外ナラサルナリ彼等ハ新住ノ地ヲ得テ熟フ

調一0231
0444
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

間モナク其三方ニ敵ヲ受ケ「セルブ」人ハ希臘及ノ勃牙利人内ヒ後ニハ土耳其人「スロヴェーヌ」人ハ「ゼルマン」人ハ「クロアート」人ハ「ヴェネシアン」及「マジャール」人ト戰ハサルヲ得サルニ至リ斯タシテ數世紀ニ亘ル悲シキ分離生活ハ初マリ其間同祖同宗ノ感情深キ彼等ハ只管再ヒ相見ル日ノ早カラムコトヲ希ヘリ

（イ）「スロヴェーヌ」人

「アヴアル」人ヲ破リシ「スロヴェーヌ」人ハ七世紀ニ「ダニユーヴ」河ト「サーヴ」河トノ間卽チ「ストリア」「カルニオール」「カリンテイア」ノ地ニ「カランタニー」Carantanie 帝國（六六二—七七八）ヲ建設セシモ其基礎薄弱ニシテ既ニ八世紀ノ終リニ「ゼルマン」人ノ攻擊ニ耐エ兼ネ「シャールマンニユ」ノ爲「フランク」王國ニ合併セラレタリ「ユーゴー・スラヴ」中國ラシキ國ヲ設ケタルハ之ヲ以テ嚆矢トス（F. Colchin. op. cit. p. 19.）其後右ノ「ストリア」「カルニオール」「カリンテイア」ノ地ハ各民族間ノ戰鬪戰敗アル毎ニ王朝ヨリ王朝ニ轉々シテ或ハ合シ或ハ離レ茲ニ其ノ複雜ナル歴史ヲ殘スニ至レリ只十三世紀ニ於テ右三地方カ墺太利公領ト共ニ一時「ボヘミヤ」ノ Ottokar 二世ニ屬セルヲ見ル其後千二百七十五年ニ於テ「ハプスブルグ」家ノ「ロドルフ」一世ハ「オットカール」二世ヲ破リテ右四地方ヲ奪ヒタリ「ロドルフ」ハ千二百八十二年墺太利及「イストリア」ヲ其子「アルベルト」一世及「ロドルフ」二世ニ讓リ又千二百八十六年「オットカール」トノ戰ニ勳功アリシ「テイロール」伯「マインハルド」ニ「カルニオール」及「カリンテイア」地方ヲ與ヘタリ然レトモ「マインハルド」ヘノ讓渡ハ「テイロール」朝廢絶ノ曉ニハ還カニ之等ノ領地ヲ墺太利ニ返附スヘキ條件ノ下ニ行ハレタルヲ以テ千三百三十五年該條件成就スルヤ最近ニ至ル迄「ナポレオン」ノ征服時代ヲ除キ全「スロヴェーヌ」地方ハ「ハプスブルグ」家ニ屬シタリ

（ロ）「クロアート」人

「クロアート」ハ九世紀ノ初メ「フランク」王國ニ征セラレシモ紀元八百六十四年其絆ヲ脫シ「ビサンス」ニ朝貢シタリ其版圖ハ「ダルマシア」海岸地方ノ「ドラーヴ」「サーヴ」兩河ノ間ノ地ヲ占ム紀元一千七十五年「ビザンス」ヨリ獨立セル「クロアート」ハ「グレゴリイ」七世ニ獨立國トシテ承認セラレタルモ其內亂ハ「マジャール」人ノ侵入ヲ招キ一千百二年洪牙利王「コロマン」(Jean Larmeroux. La Politique extérieures de L'autriche-Hongrie 1875-1914.) 其王トナリ以後「マジャール」人ト其運命ヲ共ニシタリ當時「クロアート」人ハ獨立ヲ失ヘルモ廣汎ナル自治ヲ許サレ「コロマン」Colomani 王ノ後繼者ハ常ニ其特種地位ヲ尊重セリ一千五百二十六年洪牙利王冠ハ「ハプ

調—0231
0445
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調—0231

スヴルグ」ノ「ヂルデイナンド」二世ニ移リシモ王カ特ニ「クロアート」ノ伝統的特權ヲ許シタルヲ以テ彼等モ喜ビテ王ヲ戴キタリ而シテ彼等ハ絶エス土耳其人ノ侵入ニ苦カサレ居タリシカ爲自ラ「ハプスブルグ」家覇下ニ居ルノ安キヲ思ヒシカ其豫期ハヤカテ裏切ラルルニ至リ Bihac 城沒落（一千五百九十二年）後數年ノ十七世紀ノ初頭ヨリ「ハプスブルグ」家ハ「クロアート」地方ニ Zengg ノ「カルロヴイツ」Carlovitz「ワラスディン」Warasdin ヲ包含スル僅少ナル地ヲ領スルニ止マリ其他ハ土耳其帝ノ下ニ屬シテ「ポスカ」Posega 又「シルミア」Syrmia ハソノ一行政區(Sandjak) ヲナシタリ

（ハ）「セルブ」人

「ユーゴー・スラヴ」諸國中九世紀中建設セラレシ「セルビア」王國ハ最モ長ク其獨立ヲ保チタリ希臘勃牙利ヨリ完全ニ離ルヨトニ成功シタッシ「ネオマナ」Neomana 朝ハ約二百年ノネキ間繁榮シ特ニ Etieure Douchan ノ治下ハ其黄金時代タリ其所領ハ「マセドニア」ノ「テッサリア」「アルバニア」北部希臘及勃牙利ヲ併セ千三百四十六年「ウアル」ヲ稱シ其弟「サヴア」Sava ハ「セルビア」ノ總司教トナリテ永ク其庇護者トシテ殘レリ「ドゥカン」帝ハ「ユーゴー・スラヴ」傳說中有名ナル人ニシテ成ク學藝ヲ奬勵シ今日殘存セル幾多ノ建造物ト「ドゥカン」法典トハ常年

ノ筆ト文化トヲ語レリ然レトモ其崩御ノ後内亂相繼イテ起リ Ourche 帝ノ治下トナルヤ諸侯各々拠ニ政事ヲ行ヒ帝ハ國々裡ニ千三百六十九年ニ崩御シタルカ「ラザール・グルブリオノヴイッチ」Lazare Gerblionovitch ノ新王朝ニ及ヒテハ塞比亞人土耳古軍ニ包圍セラレシヲ排擊セントセシ「ラザール」ハ千三百八十九年六月十五日「カッソヴォ」Kassovo 高原 (Champs des Merles) ノ戰ニ敗レ縛セラレテ其翌日ニハ刑セラレタルカ土帝モ亦「ユーゴー・スラヴ」一刺客ノタメニ陣中ニ仆レタッ土帝 Amurat 一世ヲ繼ケル Bajazet la Foudre ハ「ラザール」ノ子ト其女婿トノ間ニ塞比亞領ヲ分チ與ヘ年貢ト軍隊トヲ供セシメタリ (F. Civiétisa, op. cit. p. 21. J. Larmeroux. op. cit. p. 129. P. de Lanux. op. cit. p. 14 et p. 123.) 斯クテ土帝下ニ屈シタル「ユーゴー・スラヴ」ハ國家ノ秩序ヲ失ヒ千四百五十九年ニハ更ニ「モハメット」二世ノ侵入ヲ招キ全ク土國領ノ一部トナリ終レリ然ルニ其後千六百八十三年ニハ維納城下ニ於ケル波蘭王「ジェアン・ソビエスキー」Jean Sovieski ノ「オスラム」ニ對スル勝利アリ又「サヴア」公「ユージェーヌ」ハ土耳古軍ヲ敗退セシメシヲ特ニ「マジャール」領ノ解體ノ因ヲ作リシ土軍カ千六百九十二年ニ Zenta ニテ敗北セシヨト及「ベルグラード」ノ奪回セラレタルヨトハ主トシテ塞比亞領民及「クロアート」「スロヴェーヌ」義勇兵ノ武功ニ負フヨト大ナリトイフ然ルニ之ニ對シテ墺太利ハ何等酬イントスルノ意

ナオ Curlovitz (千六百九十九年) 及ビ Tassovitz (千七百十八年) ニ於テ土帝治下ニ殘レル塞比亞人ノタメニ何等ノ保護ヲモナサザリキ斯ノ如キハ政治的ニ南「スラヴ」ノ盟主タラムト欲スル墺太利ニ取リテ甚タシキ淺慮ヲ極メシモノト云フヘク果シテ其後領内ノ塞比亞人中ニハ分離運動萌スニ至レリ而シテ墺太利ハ之ヲ見ルヤ急ニ組織的同化政策ニ努メ千七百九十年ニハ「マジャール」人ト異ナル政治的施設ヲ受クヘキ彼等ノ特權ヲ奪ヒ決定的ニ洪牙利中ニ吸收セントシタリ (J. Larmeroux op. cit. p. 129)

右ニ依リ明カナルカ如ク「ダルマシア」ノ小國「デユブロミイク」Dubromik (又ハ「ラギユス」Ragusa) ハ三五八年—一八〇八年) ヲ除キテハ總テノ「ユーゴー・スラヴ」ハ中世紀ヨリ近世ノ初頭ニ至ルマテ他民族ノ征服スル所トナリテ其民族的統一ハ少クトモ表面的ニ不可能ノ觀ヲ呈シ居リタリ

第二期　第十九世紀ニ於ケル情勢

(イ) 塞比亞ノ活動

土耳古ノ壓制モ「マリア・テレサ」「ジョセフ」二世ノ統治モ「ユーゴー・スラヴ」ヲシテ其傳統ヲ忘ルルコトヲ得サラシメキ否此傳統ノ裡ニヨリ彼等ハ凡有迫害凡有同化政策ニ耐ユルノ力ヲ見出シ又彼等ノ愛鄕心ハ村ノ古老ノ物語ヤ又土耳古ノ迫害ノ手ヨリ逃レ來レル同胞ノ苦眞ヲ語ル民謠ト交錯シテヨリ良キ將來ヘノ憧憬トナリヌ而シテコノ過去ノ思出ノ如何ニ虐ケラレシ民族ニ偉大ナル精力ト心ノ糧ヲ與フルヤハ其ノ境遇ニ在リシ者ナラテハ想見シ得サル所ナラン菲カニ又誇ラカナリシ「エテイエンヌ・ドウカン」ノ治世「ラザール」帝ヤ「マルコ・クラリエヴイチ」Marko Kraljevitch ノ武勳ハ如何ニ「ユーゴー・スラヴ」青年ノ熱血ヲ沸湧セシメシコトナラム而シテ此精神ハ發シテ「トポラ」Topola ノ牧人「ジョルジ・ペトロヴイチ・ツエルニイ」Georges Petrovitch Czerny (又ハ「カラ・ジョルジ」Kara-Georges 黑キ「ジョルジ」ノ意) ヲ奮起セシメ千八百四年其同胞ト共ニ「ボスニア」ヨリ來レル土耳古軍ヲ「マッチヴア」Matchiva ノ野ニ破ラシメヌ

而シテ一方ニハコノ頃ニ又「セルブ・クロアート」語完成シタルガ其統一ニ貢獻セル「ヴアク・カラデイツチ」Vuk Karadjitch ノ教ヲ受ケシ「ルイ・ジャヂ」Louis Gaj カ「吾人ハ唯一不可分ノ民族ニシテ「セルブ」ト「クロアート」トノ間ニハ別ナシ」ト叫ヒシモ此頃ニテアリキ (J. Larmeroux op. cit. p. 127 et suiv.)

但其後「ナポレオン」ニハ東方諸國ト「ゼルマン」民族トノ連鎖ヲ破ラムコトヲ期シテ「イリリア」

調—0231
0447
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

地方ヲ占領シタリシカ其結果ハ「ユーゴー・スラヴ」人ノ民族的意識ヲ强カラシムルニ至リシモノニシテ其獨立運動ヲ初メテ具體化シタル「カラ・ジョオルジ」ハ勿論露西亞ノ後援ニ倚リシモノナリ然ルニ「ナポレオン」東征ノ意アルヲ知リシ露西亞ノ「アレキサンドル」一世ハ土國トノ國交ヲ親善ナラシムル必要ヲ感シ千八百十二年五月二十八日土國トノ間ニ「ブカレスト」條約ヲ結シテ後顧ノ憂ヲ絶チ塞比亞ニ關シテハ其第八條ニ於テ塞比亞人ノ武器放棄ト之ニ對スル自治權授與トヲ定メタリ此形勢ヲ觀取セル「カラ・ジョオルジ」ハ「マホメット」二世ト直接交渉ヲ開始シタルカ塞比亞ノ孤立ヲ利セントセル土國ハ「ブカレスト」條約ノ規定ト右交渉ノ提示トヲ無視シテ兵ヲ進メ茲ニ塞比亞人ノ決死ノ戰ヲ演セシムルニ至レリ即チ倡敵ナリシ「カラ・ジョルジ」カ奇シキ運命ノ下ニ其政敵ニ仆サレシニモ拘ラス塞比亞人ハ頑强ナル抵抗ヲ續ケ殊ニ「ミルシュ・オブレノヴイッチ」Milsch Obrenovitch ハ他豪族カ土國領外ニ逃レシニモ拘ラス最後迄奮戰セリ意外ナル抵抗ニ當惑セル土帝ハ茲ニ於テ千八百十三年「ミルシュ」ニ「ブカレスト」條約第八條ノ適用ヲ提議シ塞比亞人ニ自治ト宗教上ノ自由トヲ許シ塞比亞人ヲ土帝ノ「ヴアサアル」トナセリ「ミルシュ」ハ之ヲ受諾シテ Roudnik-knéze 公爵ニ任セラレ斯クシテ彼ノ征服者ト被征服者トノ間ニ介在セル困難ナル任務カ開始セラレタリ此時ヨリ千八百七十八年迄塞比亞國境ニ大ナル變化ナシ

(Louis André: Les Etats-Chrétiens des Balkans-Depuis 1815.; p. 137 et suiv.)

「ミルシュ」ハ此間ニアリテ驚クベキ忍耐ト圓滑サヲ以テ獨立ノ好機ヲ窺ヒタルカ千八百十七年塞比亞人民議會 Skouptchina ハ「ミルシュ」ヲ塞比亞世襲公爵トナス旨宣言シタリ

然ルニ其後「ミルシュ」ハ內爭ノタメ千八百三十九年六月十三日又其子「ミセル」ハ同樣ノ原因ニヨリ千八百四十二年墺地利ニ逃レタルヲ以テ千八百四十二年八月 Skouptchina ハ「アレキサンドル・カラ・ジオルジヴイチ」ヲ其後繼者トシテ指定シタリ然レトモ「アレキサンドル」ノ土耳古ニ對スル溫和ニ過クル態度ハ當時獨立心旺ナリシ一般塞比亞人ニ好マレサリキ

後ニ述フルカ如ク「アレキサンドル」ハ又千八百四十八年九月ノ「マジャール」人ニ對スル「クロアート」人ノ戰ノ際ニモ積極的ニ「クロアート」人ヲ援助スル所ナリ其戰ヲシテ失敗ニ歸セシムル一因ヲ作リタリカクテ彼ノ退嬰政策ニ對シテハ一部愛國熱狂者ノ攻擊モアリシカ千八百五十六年四月ノ巴里條約カ塞比亞ヲ露西亞ノ後見ノ下ノミニハ置カスシテ之ヲ列國連帶保障ノ下ニ置キタルハ「アレキサンドル」ノ右ノ退嬰政策ノ賜物ナリトス (Louis André; op. cit. p. 140 et suiv.)

サレト彼ノ態度ニ慊ラサリシ塞比亞人ノ不滿ハ遂ニ發シ彼ハ千八百五十八年十二月二十一日ニ廢セラレテ當時外國ニ亡命中ナリシ「ミルシュ・オブレノヴイッチ」呼ハレテ再ヒ塞比亞公トナリ「祖

調一0231
0448
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國ノ父」ナル尊稱ヲサヘ受クルニ至レリ「ミルシユ」ノ强硬政策ト其子「ミセル」卽位當時ニ於ケル諸般ノ情況ハ塞比亞ノ土ニ對スル土國ノ主權カ全ク名ノミナルヲ示シテ餘リアリキ (Ibid. p. 146, 149-150.) [illegible]

普墺戰爭後塞比亞人ハ「クレート」島叛亂ニ當惑セル土耳古政府ト交渉ヲ開始シ千八百六十八年土耳古兵ヲシテ全部塞比亞領ヨリ撤退セシムルコトトシテ事實上塞比亞ハ獨立スルニ至リタリ (L. André, op. cit., pp. 141-152).

其後千八百七十六年重稅ト二年來ノ凶作トニ苦メル「ボスニア」人ハ舊「セルブ」人及「モンテネグロ」人ノ支持ヲ得テ土耳古軍ニ叛キタルカ塞比亞ノ「ミセル」ハ未タ土耳古ト角逐スルニ力足ラサルコトヲ覺リテ自國ニ逃レ來レル「ボスニア」人ヲ收容スルコトニ止メタリ然ルニ惜哉英主「ミセル」ハ千八百七十八年六月十日「ベルグラード」ノ一公園ニ於テ三名ノ兇漢ニ襲ハレテ仆レ當時巴里ノ「ルイ・グラン」Louis Grand 中學校ニ遊學中ノ彼ノ姪孫「ミラン」Milan 招レテ其後ヲ繼キシカ時ニ歲僅カニ十四才ナリキ

千八百七十八年七月十三日ノ伯林條約ニヨリ東方ノ危機辛フシテ收マリ塞比亞ト「モンテネグロ」トハ土耳古ヨリ若干ノ土地ヲ得テ獨立セルモ其獨立トハ名ノミニシテ事實上墺洪國ノ下風ニ立チ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ハ墺洪軍管理ノ下ニ屬シ「ユーゴー・スラヴ」人百年ノ希望ハ未タ完全ニ實現セラルルコトヲ得ス、千八百八十二年「ミラン」ハ王ト稱シタリ

(ロ) 「クロアート」人ノ活動

塞比亞叛亂ノ影響ヲ最モ多ク受ケタルハ「クロアート」人ニシテ其民族的覺醒ハ文學ニ又歷史的探究ニ而シテ最後ニハ千八百四十八年ノ事件ニ於テ現レタリ卽チ右ノ事件トハ「クロアート」人ノ首領タル「ゼラチイッチ」Zellatchitch ノ「マジャール」人ニ對スル宣戰ニシテコノ戰ハ王國內ノ總テノ「ユーゴー・スラヴ」人ノ同情ヲ惹キ其旗下ニ集レルモノ頗ル多ク「モンテネグロ」ノ「ピエール」二世モ勢援ヲ與メタル書翰ヲ彼ニ送リタリ

此紛爭ハ「マジャール」人カ「クロアート」人ニ對シ其歷史的特權ヲ無視セムトスルニ初レルカ時偶〻維納政府ハ「マジャール」人革命ニ對スル鎭壓軍派遣ト同時ナリシタメ自然ノ勢トシテ維納政府ヲ利スルニ止マレリ一方塞比亞ノ「アレキサンドル」カ積極的ニ「クロアート」人ヲ援助セサリシコトモ其不成功ニ終レル一ノ要素ヲナシタリトイフ「クロアート」人奮起後維納政府ハ一時千八百四十九年ニ「ヴオイヴオデイナ」ニ於ケル塞比亞人ニ自治ヲ許セシモ洪牙利トノ衝突治定スルヤ千八百六十年之ヲ撤回シテ「マジャール」人及獨逸系小作人ノ移住ヲ奬勵シ着々

調—0231
0449
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ト同化政策ニ努メタリ又維納政府ハ「オルソドックス」タル塞比亞人カ完全ナル獨立ヲ求ムルニ反シ「カソリック」タル「クロアート」人ハ必スシモ之ヲ求メサルコトヲ觀取シ「ブダペスト」政府ヲシテ千八百六十八年「クロアート」人ト協定シテ之ニヨリ司法文部宗教ニ關シテハ「クロアート」ニ人ニ自治ヲ外交軍事財政鐵道ニ關シテハ洪牙利ト之ヲ共ニシテ行政機關ノ長タル州長(Ban)ハ皇帝ノ直接任命ニヨルヘキコトヲ定メタリ(J. Larmeroux, op. cit. pp. 132-137.)是畢竟スル處「セルブ」人ヲ孤立セシメムカタメニシテ其後ニ於ケル「テイツア」Tisza 伯ノ同化政策ハ殊ニ辛辣ヲ極メ「セルブ」人及「クロアート」人ノ學校ニ極度ノ干渉ヲ行ヒ又千九百七年ニ於ケル補助法ニヨリテモ私立學校ニ嚴重ナル監督ヲナシタリ

カカル維納及「ブダペスト」政府ノ術策ニモ拘ラス「ストラスマイエル」Strussmayer ハ「クロアート」人ヲ「ミレチイッチ」Milotchitch ハ「セルブ」人ヲ率イテ起チ殊ニ前者ハ「セルブ」人中ノ「カソリック」ト「オルソドックス」信徒ノ間及「セルブ」人ト「クロアート」人トノ間ノ疎隔ヲ和クルコトニ努メタリ

第三期　第二十世紀初頭ヨリ大戰迄

(イ)　第二十世紀初頭ニ於ケル塞比亞

塞比亞最初ノ王「ミラン」(一八八二—一八八九年)之ヲ繼キシ「アレキサンドル」一世(一八八九—一九〇三年)ハ民族的自覺ナク自ラ維納政府ノ後見ヲ受ケタルモ後者カ千九百三年六月十一日ノ「クーデター」ニ依リ其妃「ドラガ」Draga ト共ニ弑セラルルヤ當時「ジュネーヴ」ニ故國ノ風雲ヲ窺ヒ居リシ「ピエール・カラ・ジオルジヴイチ」迎ヘラレテ王位ニ卽キタリ

「ピエール」ハ千八百四年ノ勇士「カラ・ジエオルジ」ノ孫ニシテ千八百四十四年ニ生レ幼ニシテ巴里「サン・バルブ」Saint Barbe 大學ニ後「サン・シル」Saint Cyr 大學ニ遊ヒ千八百七十年ノ役ニハ佛軍ニ從ヒ又千八百七十五年ノ「ボスニア」ノ叛亂ニモ參加セリ「ピエール」一世ハ卽位スルヤ輿論ヲ尊重シ且先以テ塞比亞カ墺洪國政治家ノ願使ニ甘セサルコトヲ示シタリ例ヘハ千九百五年ノ勃塞通商條約案中ニハ關稅廢止ノ件アリ其實行ノ曉ニハ塞比亞ハ墺太利ヨリ經濟的ニ獨立スルノ一歩ヲナスヲ以テ墺太利ハ之ヲ喜ハス時恰モ塞墺通商條約有效期間終了セントシツツアリシカハ墺太利ハ塞比亞ニシテ勃牙利トノ交渉ヲ申込シ且「ボヘミア」及「スコダ」Skoda ノ墺太利國工場ニ軍器ノ注文ヲ發セサレハ該條約ノ更新ヲナササルヘシト威嚇シタルコトアリ蓋シ塞比亞ヘソ輸入中三分ノ二ハ墺洪國ヨリ之ヲ仰キ其輸出中(殊ニ果實—主トシテ梅實—及家畜)ノ八

調—0231
0450
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

劃五分の墺洪國ニ對スルモノナルカ故ニ塞ニシテ其獨立國タルノ體面ヲ保タムカ其經濟狀態ハ危殆ニ瀕スヘク又其易キヲ欲セムカ獨立國タルノ實ヲ失フニ至ルヘシ然レトモ此間ニ處シテ塞比亞政府ハ動セス或ハ鐵道會社トノ交渉ニヨリテ泡貨ノ引下ケヲ行ヒ又直接海ヘノ出口ヲ求メムトシ他方佛國 Schneider 會社ノ Creusot 工場ニ軍需品ノ注文ヲ發シタリ之ヲ Guerre des Forces ト稱ス於茲墺太利ハ大イニ怒リ塞比亞ノ商品ニ對シ國境ヲ閉ヒシカ「パシッチ」Pachitch 內閣ハ英佛ノ支持ヲ得テ「モンテネグロ」及地中海ニ其販路ト通路トヲ求メテ且勃牙利トモ通商條約ヲ締結セリ此事實ハ塞比亞ヲシテ非常ナル自信ヲ得セシメシカ時恰モ洪牙利國內ノ「ユーゴー•スラヴ」運動ト時ヲ同シウセル爲墺國政治家ノ心膽ヲ寒カラシムルモノアリタリ

（ロ）墺洪國內ノ「クロアート」人

中央政府ノ批政ニ加フルニ洪水ト重稅トニ苦ミシ墺洪國內「ユーゴー•スラヴ」人ノ窮狀ヲ訴ヘムカタメ「ダルマシア」「イストリア」及「クロアシア」ノ議員ハ千九百三年皇帝ニ謁見セムトシテ果サヌリシカ千九百五年十月二日「リエーカ」Rijeka（「フユーメ」）ニ於テ該地方選出ノ「ユーゴー•スラヴ」系議員四十名ハ公然「マジャール」獨立黨ニシテ「クロアシア」「ダルマシア」等ノ自治施設ノ進捗ニ盡力スル所アレハ其政綱ニ同スヘキ旨ヲ宣言シ同月十七日「ツァダール」

Zadar ニテモ同樣ノ宣言ヲナシタリ此報「ベルグラード」ニ達スルヤ滿市粧ヲ凝シテ墺洪國內ノ同胞ノ決議ヲ歡迎セリ然レトモ「マジャール」獨立黨ハ彼等ノ後援ニヨリテ千九百六年政權ヲ握リシモ其約ニ反シテ何等ノ施設ヲナサス專ロ塞比亞「クロアート」人ハ以前ニモ增シタル悲慘ナル狀態ニ陷レリ事茲ニ至リテ彼等ト「ハプスブルグ」家トノ最後ノ精神的絆ハ斷絕セラレ只同胞ノミ相倚リ相扶クヘキコトヲ深ク體驗セリ此時ニ當リ大墺國ノ威武ニ屈セス自己ノ努力ニヨリテ其運命ヲ開拓シツツアリシ塞比亞ノ姿ハ如何ニ不幸ナル彼等ノ眼ニ崇高ナル憧憬ノ對象トナリシ ソヲ右ノ如キ事件ハ墺洪國外相「ゴリュコヴイスキー」Goluchowski 伯爵職ノ間接ノ原因トナリシカコヽ千八百九十五年以來ニ王國外交ノ樞機ヲ握レル彼ハ波蘭ノ出ニシテ其外相トナリシコトハ墺露接近ノ表象ト評セラレヌ事實彼ハ千八百九十七年露國ト條約ヲ結ヒテ巴爾幹ノ「スラヴ」族ニ對シテハ比較的溫和ナル態度ニ出テタリ

（ハ）「ボスニア」「ヘルツェゴヴイナ」ノ併合

「ゴリュコヴイスキー」伯ノ後任墺洪國外相ハ「エーレンタール」Ochrenthal 男爵ナリ七年ノ長年月ヲ駐露大使トシテ過シタル彼ハ極東ノ戰ニ又千九百五年ノ革命ニ困憊シタル巨人ノ恐ルルニ足ラサルコトヲ推察シ其前任者ニ反シテ「ボスニア」「ヘルツェゴヴイナ」ヲ合併シ墺洪國內外

調—0231
0451
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ於テ一擧「ユーゴー・スラヴ」運動ヲ終熄セシメムト企テタリ彼ノ政策ハ先ツ猛烈ナル新聞戰ニ於テ開始セラレ其機關紙ハ盛ンニ塞比亞宰相「パシッチ」ニハ墺國ト戰ツテ大塞比亞ヲ建設セントスルノ意志ヲ包藏セリト宣傳シ又塞比亞外務省ノ「スパレイコヴイッチ」Spalaikovitch ヲ會頭トセル「ポスニア」「クロアシア」「煽動委員會」アリト吹聽シタリ (Ibidem. pp. 149-151) 一方「ミレンタール」ハ「モンテネグロ」國王カ其次子「ミルコ」Mirko ノ爲メ秘カニ塞比亞ノ王冠ヲ窺ヘルコトヲ觀破シテ塞比亞黑山兩國ノ間ニ不和ヲ增進セシムルタメ凡有手段ヲ講シタリカクテ千九百八年二月二十七日機熟セリト見タル墺洪國外相ハ外交團ニ對シ駐土墺國大使「パレイシニ」Pallicodini 侯宛ノ訓令ヲ發表シタリ其內容ハ土帝ニ「ウヴアツ」Uvatz「ミトロヴイツ」Mitrovitz 鐵道布設ニ付同意ヲ求メシメムトスルニアリカクシテ右地方併合ノ準備ハ着々進捗シ同十月五日ニ於ケル墺帝ノ宰相「ベック」Bock ノ男ニ宛テタル(「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ヲ併合シ同地方ニ墺國皇室ノ皇位繼承法ヲ適用スルコトトシ且同地方ニ立憲制度ヲ布カントスル)旨ノ上諭ヨリテ右地方ノ運命ハ決定セラレ「涙ノ國」ハ完全ニ墺國ノ所有ニ歸スルコトトナリタリ

尙同日墺帝ハ其外相ニ宛テテ大要左ノ通リノ上諭ヲ與ヘタリ[illegible]

「墺洪王國ハ其文明及ビ政治ノ先進國ナルノ故ヲ以テ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ノ占領及行政ヲ受諾シタルカ今同地方ノ地位ヲ明瞭ナラシムルコトノ必要ナルコトヲ確信シ朕ハ右措置ヲ出ツルコトヲ決心セシメタル平和的意圖ヲ明示スルタメ右地方ヲ吾カ主權ノ下ニ併合セントスコニ朕ハ「コバヴイ・パザール」ノ「サンジャク」ヨリ朕ノ軍隊ノ撤退セムコトヲ命令ス」

之ニ對スル塞比亞黑山兩國民ノ奮激ノ心ハ極度ニ達シタルカコノ時塞比亞ノ一老將ノ攝政「ジエオルジ」公ニ遞ベタル次ノ言ハ此間ノ消息ヲ傳ヘテ遺憾ナシ[illegible]

「殿下ヨ時局ハ重大ナリ願下ニシテ光榮ヲ保チ且塞比亞ノ靑史ニ黃金ノ文字ヲ以テ御名ヲ止メ給ハムト欲セハコノ際御決斷アラムコトヲ然ラサレハ殿下ノ自由ニシテ美麗ナル國ハ其凡テノ國民ト共ニ滅沒スルニ至ルヘシ塞比亞ノ義勇兵ニ代リ微臣ハココニ殿下ノ萬歲ヲ讚ヘ奉ル」

「ベルグラード」政府ハ列國ニ抗議ヲ送リ本合併ヲ以テ伯林條約ノ違反ナリトナシタルカ維納政府ハ二方三十萬ノ兵ヲ國境ニ集中シ一種ノ最後通牒ヲ塞比亞ニ發シテ民族的反抗ノ禁壓及ビ塞比亞民衆ノ墺洪國ニ對スル敵愾心ノ排除ヲ要求セリ此時露國ノ塞比亞ノ爲ニスル一聲一笑ハ一般的爭論ヲ惹起スルニ充分ナリシカ英佛ノ調停宜シキヲ得テ戰雲四散シ英國ハ塞比亞ニ勸メテ彼ノ有名ナル屈辱的宣言ニ調印セシメタリ時ニ千九百九年三月十三日卽チ塞比亞ハ右宣言ニヨリテ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」併合ノ事實自己ノ權利ヲ侵害セサリシコトヲ認メ且伯林條約第二十五

調—0231
0452
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

條ニ依リ列强ノ執ルコトアルベキ決定ニ從フコト對塊政策ノ變更及ヒ其軍隊ヲ千九百八年春ノ狀態ニ復歸スベキコトヲ約シタルモノナリ

(二) 其後ニ於ケル塊國ノ壓迫的政策

塞比亞ヲシテ干戈ヲ執ラシメムトシテ果サザリシ塊太利ハ更ニ醜惡ナル手段ヲ用フルニ至リ警吏、密偵及煽動者ノ群ハ「クロアシア」ノ地ニ襲ヒ來リテ「ベルグラード」官憲ト通セル叛徒ノ探究ニ努ムルニ至レリ其目的ハ勿論汎塞比亞運動ヲ誇大シテ世ニ示サムカ爲メノ證據蒐集ナリシカ大ナル獲物ナカリシ彼等ハ或ハ政治集會ノ記錄或ハ秘密結社ノ記錄ヲ僞造シ殊ニ Cottignè ノ爆彈事件ニ重要ナル役割ヲ演シタル「ジエオルジ・ナステイッチ」Georges Nastitch ハ千九百八年七月末ニ Finale ト題スル冊子ヲ物シテ其中ニ於テ「ベルグラード」ニ在ル革命協會ノ存在ヲ公衆ニ告ケ塞比亞政府カ其黑幕ナル旨ヲ公表セリ該冊子ノ根據ハ頗ル薄弱ノモノナリシカ其誹謗的態度ハ塞比亞人ノ人心ヲ激昂セシムルニ足ルモノアリキ而シテ「エーレンタール」ハ之ニヨリテ統一黨議員五十三名ヲ下獄セシメタルカ彼等ノ罪名ハ彼等カ直接間接ニ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」分離運動ニ與レリト稱スルニアリタリ千九百八年一月ニ捕ハレタル彼等ノ審問ハ其後七ケ月餘ヲ同年八月ニ至リテ初メラレタルガ之カ任ニ當リシ裁判長「タラボクチア」Turbocchia ハ及檢

事總長「アクユルテイ」Accurti ハ不正義ノ限ヲ盡シタリ之ニ對シ「プラーグ」大學教授「マサリック」ノ證據書類ニ關スル有力ナル辯駁アリタルモ同年十月五日右ノ中三十一名ハ五年乃至十二年ノ禁錮刑ニ處セラレタリ之ヲ稱シテ「アグラム」Agrum 訴訟トイフ

又千九百九年三月二十四日「フリードユング」Friedjung 博士ハ「ノイエ・フライエ・プレッセ」紙上ニ於テ「クロアート」議員ハ塞比亞ノ爲メニ墺洪國ヲ害ルモノナリト罵リシカ爲「クロアート」議員ニヨリテ告訴セラレ其審問ハ千九百九年七月ニ開カレタリ彼ハ「ナステイッチ」ノ著書、塞比亞外務省ヨリ盜出セル書類及「ヴアテッチ」Vatitch ナル通信員ノ供給セル材料ニヨリテ自己ノ主張ノ正シキヲ力說シタルカ其假面ハ遂ニ奪ハレテ其時迄爲スアル史家トシテ認メラレタル彼モ凡庸ナル御用學者ニ過キサルコトヲ證明セラレタリ

又右ノ類似ノ事件ハ「ユーゴー・スラヴ」ノ政治的史地殊ニ「ライバッハ」Laybach ニ起レリ而シテ是等不正ナル陰謀者ニヨリテ釀成セラレタル一般的不安ノ裡ニ自暴自棄セル民衆ハ「クロアシア」ノ官邊者ニ啣ミ暗殺ハ頻々トシテ行ハレタリ例ヘハ千九百十年六月十五日「バグダウ・レラジック」Bogdan Lerujic ハ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」總督「フォン・ヴエレサアニン」Von Veresanin ヲ又千九百十二年六月八日「ジュキク」Zukic ハ「フォン・クヴイ」Von Cuvoj ヲ襲ヒ

調一0231
0453
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

タリ而シテ結果ハ千九百十二年四月三十日ノ憲法施行停止トナリ六月二日ニハ「ボスニア」ニ於ケル總督ノ權力ハ軍部總督ノ手ニ收メラルルニ至レリ二方墺國皇太子「フランシス・フレジナン下」ハ墺洪「クロアート」ノ連衡ヲ說キタルモ洪國政府モ「エーレンタール」モ之ニ大ナル支持ヲ與ヘサリキ斯カル間ニ伯爵ヲ克チ得シ「エーレンタール」ハ職ヲ辭シテ在露大使館時代ノ同僚「バルチトルド」Berchtold 伯ヲ其後任ニ推薦セリ

[illegible]（ホ）伊土戰爭

墺太利國ニヨル「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ノ併合ハ伊太利ニ於テモ非常ナル反響ヲ起シタリ何トナレハ墺太利ノ東進ハ伊太利ノ巴爾幹進出ヲ阻止スルカ故ナリ慧敏ナル「エーレンタール」ハ這般ノ機微ヲ察シテ既ニ千九百八年九月四日ニハ伊國外相「テイツトニイ」ト「ザルツブルグ」ニ會合シテ合併問題ニ付諒解ヲ求メ且ツ伊太利モ相當ノ分ケ前ヲ得ヘキ旨ヲ仄カシタリ然レトモ其後右ノ分前トハ黑山國ニ關係アル「アンテイヴアリ」Antivari ニ關スル伯林條約第二十九條ノ廢止ニ過キスト知レル時伊太利ハ失望ト同時ニ憤怒ヲ感シタリサレト當時露西亞ノ「トロウスキー」Tolowsky ノ提唱ニヨリ「ボスニア」合併問題ヨリ生セル諸般ノ事項整理ノタメ列國會議開催ノ氣運動キツツアリシカハ伊太利ハ之ノ時ニ乘シテ衰退シツツアル土耳古ヨリ何物カヲ得ムト

企劃シタレドモ遂ニ右ノ會議開催ノヨドモ無クシテ終リタルカコノ間ニ於ケル伊太利ノ焦慮ハ千九百八年十月六日ニ「ブルガリア」カ Custo Briausa ニ於テ輿論緩和ノタメニ爲シタル演說ニ因リテ其之ヲ親知スルコトヲ得ヘク伊太利ハ遂ニ武力ニヨリテモ其分前ヲ得ムト覺悟スルニ至レリ而シテ佛國ノ同意ト中立ノ約トヲ得タル「ギオリツテイ」Giolitti ハ「モロツコ」問題勃發スルヤ躊躇セル「ヴイクトル・エマヌエル」王ヲ勸メテ千九百十一年九月七日突如土耳古ニ最後通牒ヲ送リテ曰ク「伊太利ノ利益ハ「トリポリテーヌ」Tripolitaine ニ於テ土耳古ノ惡施設ノタメニ非常ナル損害ヲ蒙リ居レリ從テ自國民ヲ斯ル狀況ト土耳古官憲ノ組織的惡意ノ下ニ置ク能ハサル伊太利政府ハ「トリポリテーヌ」ト「シルネーク」Cyrenaïque ノ軍事占領ヲ行フヘク之ニ對シ土耳古ニ於テ何等故障ヲモ申立テサルコトヲ求ム」ト而シテ意外ノ苦戰ノ後伊太利ハ纔カニ「ローザンヌ」ニ於テ土耳古ト平和會議ヲ催スコトトナリタルカ土耳古ハ千九百十二年十月十五日更ニ又新ナル敵ヲ見出シタリ[illegible]（ヘ）巴爾幹戰爭[illegible]伊土戰爭始マルヤ「セルヴヤード」ト「ブルガリア」間ノ關係ハ活氣ヲ呈シ千八百八十五年役ノ怨恨ヲ棄テテ相接近セリ特ニ勃相 Gichoff ノ訪佛（千九百十一年十月四日）及訪墺（千九百十

調一0231
0454
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

千年十月七日以後益〻具體化シ同年十一月十一日Ghechoffハ塞比亞宰相Milovanovitchト會シ伊土戰爭ヨリ生セル諸般ノ事情及ヒ土耳古青年黨ノ施設等ニ關シ意見ヲ交換セリ而シテ「アルバニア」問題ニ關シ意見ノ相違アリシモ塞比亞之レヲ讓歩シテ千九百十二年三月十三日塞勃同盟條約成立セリ該條約ハ防禦的ノモノニシテ秘密附屬書ニ於テサヘ土耳古ヲ "Ennemi probable" トセルニ過キサリキ (G. Larmoroux, op. cit. p. 208, cf. suiv.) 千九百十一年十月十日[illegible]露西亞ノ「ニコラス」二世ハ之レニ好感ヲ表シ該條約ノ寫シヲ獻セル勃牙利代表ヲ Livadin ニ引見シ厚ク之ヲ待遇セリ一方露國外相「サゾノフ」ハ四月二十六日議會ニ於テ勃塞兩國ノ接近ヲ平和的ニ卽チ挑戰的色彩ヲ帶ハシムルコトナク之ヲ奬勵スル旨ヲ宣ヘタリ塞勃條約第四條ニ依リ同四月二十九日ヨリ五月十二日ニ至ル間ニ兩國間ニ軍事協定モ締結セラレヌ之ヲ見タル希臘ノ Venizelos ハ駐勃希國公使 Panas ヲシテ Ghechoff ヲ訪ハシメ希臘カ土耳古ニ攻擊セラレシ時勃牙利ニシテ希臘ヲ助ケンカ希臘モ亦勃牙利ニ同樣ノ援助ヲ爲スヘキヲ提言セシメ次テ「マセドニア」問題ニ關シ一時交渉遲滯セシモ千九百十二年五月二十九日條約成リ黑山王國モ亦土耳古ニ對シ協同動作ヲ採ルヘキコトヲ約シタリ [illegible]

同年 Chtip 及ヒ Rodham ニ於ケル虐殺ノ報傳ハルヤ勃牙利人心ハ極度ニ激昂シ黑山國ハ勃牙利ニ卽時共同動作ヲ採ルヘキコトヲ提議セリ勃牙利ハ卽チ之レヲ容レテ希塞ト交渉ヲ開キタルモ同盟條約ノ存在ニ拘ラス交渉遲々トシテ進マス千九百十二年四月二十九日 Ghechoff ノ許ニ君府ヨリ土耳古總動員ノ報達スルヤ辛ウシテ四國互ニ讓歩シ同シク千九百十二年五月一日ニ動員シ同十二日四國側ハ Ghechoff ヲ通シ土耳古ニ書ヲ送リ動員撤回ト九箇條ニ亙ル要求ヲナセシカ其ノ眞意ハ土國ヲ怒ラシムルニ存シタリキ而シテ土耳古ハ「ソフイア」ニ於ケル自國代表ヲ召還シ茲ニ第二巴爾幹戰爭始マレリ [illegible]

此ノ間ニ立チ墺太利ハ土國ノ容易ナル勝利ヲ豫期シテ寧ロ四國側ヲ奬メタル形アリ卽チ土國ニシテ勝タシカ墺太利ハ土國ノ西進ヲ口實トシテ兵ヲ塞比亞方面ニ送リ永ク撤兵セサルヘキヲ思ヒタレハナリサレト土耳古ハ破レ列國ニ調停哀願ヲナシ以テ千九百十三年五月三十日ノ倫敦條約トナレリ此ノ結果土耳古ハ「アルバニア」ノ歸屬ハ之ヲ保留シ) Enos, Midia ヲ劃スル線以西ノ歐土ヲ同盟諸國ニ與ヘ「クリート」島及ヒ「エジエアン」海ノ土領島嶼ヲ放棄セリ

然ルニ同盟諸國カ勝利ノ結果ヲ分配スルニ當リ塞ハ塞比亞比亞人居住地ノミヲ要求シタルニ反シ希カニ維納政府ノ使嗾ヲ受ケシ「ソフイア」政府ハ全「マセドニア」ト及ヒ「アルバニア」トノ共通國境ヲ求メ又千九百十三年三月十三日ノ塞勃同盟條約存スルニモ拘ハラス且ツ露帝ノ仲裁ヲモ

調一0231
0455
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

却ケ又其ノ叱責ニ對シテハ國民ニ對スル止ミ難キ義務ナリト答ヘテ暗々裡ニ戰備ヲ整ヘ[illegible]タルカ

「フレジナンド」王ハ千九百十三年六月二十九日ノ深更ニ至リ Vardar 河畔ニ於テ Kovcholoff 將軍ヲシテ塞ノ Pirlepe 將軍ノ麾下ノ兵ヲ襲ハシメ斯クテコヽニ第二巴爾幹戰爭始マルコトトナレ[illegible]

[illegible]コノ時「パトニック」ハ六十六歳ノ老將ナリシカ彼カ此ノ不意ノ攻擊ニ一歩モ守地ヲ退クコトナキヲ部下ニ嚴命シタルコト又殊ニ Dinar ノ師團カ千九百十三年七月一日永キ攻圍ニ耐ヘシ後敵ヲ遠ク Zlotovsk ノ彼方ニ驅逐シタルコトハ後世ニ傳フルニ足ルヘキ功績ナリ (J. Larmeroux, op. cit., p. 365, et suiv.) 一方勃牙利ハ戰ニ敗レシノミカ羅馬尼ハ巴爾幹ノ均衡ヲ標榜シ Dobroudja ニ於ケル國拡擴張ヲ求メ之等ノ形勢ヲ利用セル土耳古又希臘側ニ與セシカハ「フレジナンド」ハ千九百十三年七月十七日平和ヲ求メ八月三日及ヒ六日ノ間ニ又巴爾幹諸國ト土國トハ九月二十九日ニ平和ヲ締結セリ本「ブカレスト」條約ハ特ニ希臘ヲ益セシカ塞比亞ハ之レニ依リ Vardar 及 Strouma 河間ノ地ヲ得人口モ百五十萬ノ增加ヲ見タリコヽニ於テ墺洪兩國ノ反對ニ依リ「アルバニア」ヲ得ス從テ海ヘノ通路ヲ得サリシ塞比亞モ今ハ中北部「マセドニア」ヲ得又「ノヴイ・バサール」ヲ領有セルヲ以テ黑山國ト境ヲ接スルニ至レリ

(ト) 「サラエヴオ」ノ暗殺事件

[illegible]ハ空シク雄國ヲ挫カレタル勃牙利ハ再起ヲ期セシカ一方墺太利ハ塞比亞カ日ニ日ニ其ノ地歩ヲ固メ「ヨヨヨゴースラヴ」ト人カ憧憬ノ的トナルヲ見ルヲ忍ヒ得サリキカクテ如何ニモシテ塞比亞ヲ仆サンドスルノ念ハ墺太利人ノ胸裡ニ滲ミタルヲ以テ些々タル事件タモ兩國間ニ生スルモノアランカ之レ大ナル事件ノ原因ヲナスヘキハ明カナリキ千九百十三年九月塞領 Dirba ヲ略取セル「アルバニア」ノ匪徒ヲ討タントセル「ピエール」ノ軍カ策戰地帶ヲ占メンカ爲密カニ「アルバニア」國境ヲ侵シタル處維納政府ハ塞比亞兵ノ撤兵ヲ求メ若シ聞カサレハ即時干渉アルノミト威赫セリ之ト時ヲ同ウシテ他ニ一紛爭生シタリ夫ハ「ブカレスト」條約ニ依リ塞比亞カ獲得セル地方ノ鐵道ニ關スルモノナルカ該鐵道ハ其ノ株主ノ大多數カ墺洪人タル土耳古東方鐵道會社ニ屬セルカ故ニ塞比亞ハ何カニツケテ之カ不便ヲ感セルヲ以テ之等ノ株券買取方ヲ會社ニ交渉セル處「ベルヒトルド」伯ノ干渉ニ依リテ果タサスコヽニ於テ幾多ノ屈辱ヲ忍ヒ來レル塞比亞モ今ハ耐ヘ兼ネ深ク決意スル處アリキ而シテ之レカ爲ニハ先ツ內部ノ結束ヲ固メント欲シ法王廳ト交渉シテ塞國內ノ「カトリック」教徒ニ「オルソドックス」教徒ト同等ノ權利ヲ與フヘキコトヲ約束シタリ斯クテ「ベルグラード」維納共ニ國交斷絶ノ機ヲ待チリ茲ニ至リテ塞墺爭鬪ノ避ケ難キハ千九百十三

調一0231
0456
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年十二月「ベルヒトルド」伯ノ外交團ニ爲セル宣言ニ依ルモ明カナリ而シテ墺太利カ斯ク執拗ノ態度ニ出テシハ獨逸ノ絶對支持ヲ得タルカ故ニ外ナラス（墺獨ノ一致ハ其ノ中歐政策ノ爲メニシテ E. V. Zenker カ千九百十七年三月十九日 Vossische Zeitung ニ公ニセル處ハ之レヲ語リテ餘リアリ卽チ「ユーゴースラヴ」問題ハ獨帝國重大利害ト中歐ノ東ヘノ通路ヲ自由ニスル事トニ密接ナル關係アリ「セルブ・クロアート」地方カ Quemoro ヨリ鐵門（Iron gate）ニ「ダニューブ」、Drave 河ヨリ「マセドニア」ニ至ルコト及ヒ該地方カ巴爾幹半島ニ横ハル獨逸發展ノ隙壁ナリシコトハ明ラカナリ該地方ハ中歐商業ノ門戸ヲ含ミ沿府ヘノ通路ハ總テ此處ヲ通ス Marava, Vardar ノ兩河ハ中央商業港「サロニカ」ヘノ通路ナリ又墺洪王國ノ有スル「アドリアチック」海ノ門戸ハ總テ「ユーゴー・スラヴ」ニアリ墺太利ノ利益ニ反シテ「ユーゴー・スラヴ」問題ノ解決ヲ見ンカ獨逸ノ夫レモ著シク害セラルヘク中歐ノ經濟的覇權モ一場ノ夢ト化スヘシ

千九百十四年六月二十八日日曜日第十五軍團ノ演習ニ列セル「フランシス・フレジナンド」ハ其ノ妃ト同列ニテ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ノ首都 Sarajevo ニ來レリ偶然ニモ該地方警察ハ皇嗣夫妻ヘノ警護カ軍隊ニ一任セラレタルヲ信シ何等特ニ警戒スル所ナカリシハ暗殺類々タル該地方殊ニ該地ニ於テ人望好マシカラサリシ皇嗣ニ對シ實ニ不注意ナル極ナリキ先ツ午前十一時墺大公ノ自働車カ市廳ニ赴ク爲メ群集中ヲ通過スルヤ之レニ爆彈ヲ投セルモノアリテ大公ノ手ニヨリ押シ排ケラレタル該爆彈ハ地上ニ破裂シ其供奉者及ヒ群集中ニ多數ノ犧牲者ヲ生シタルカ次ニ大公ハ同日中此等負傷者ヲ見舞フヘク陸軍病院ニ赴キタリ然ルニ其ノ途次公ノ自働車カ同市「フランシス・ジョセフ」街ト「ドロルフ」街ノナス角ニ差シ掛カルヤ突如一青年ハ公ノ自働車ヲ狙撃シタリ而シテ其ノ第一彈ハ公妃ノ左腹部、第二彈ハ公ノ咽喉部ニ命中シ兩者共ニ間モナク絶命セラルルニ至リタリ爆彈ヲ投セシ Gubrinovich ナル印刷職工及ヒ狙撃者 Gavrilo (Gavrilo) Princip ナル十九歲ノ學生ハ共ニ捕ハレタルカ久シク機ヲ窺ヒ居タリシ維納政府ハ該事變ハ「ベルグラード」政府ニ責任アリトシ佛露ノ調停ヲ無視シテ七月二十三日午後六時「ベルグラード」駐劄墺國公使 Giesl 男ヲシテ不在中ナリシ「パシッチ」ニ代ハレル「パッチョン」ニ大戰ノ原因トナレル彼ノ有名ナル最後通牒ヲ手交セシメタリ

此ノ微妙ナル機會ニ際シ「サラエヴォ」事變直後ノ Giesl ノ報告ハ特ニ重大ナル意義アルモノト言フヘク次ニ在「ベルグラード」墺國公使館ノ維納政府ニ致セル二報告ヲ掲クヘシ

公使館書記官「シュトルク」Storck ノ外務大臣宛報告（六月二十九日附「ベルグラード」）大要

昨日ノ悲劇的事件ニ對シ本官等ハ今日冷靜ニ客觀的ニ且ツ適當ナル落着ヲ以テ語ルコトノ困難

調一0231
0457
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナルヲ覺ユルヲ以テ茲ニ二三ノ點ニ關シ假定的ニ報告スルニ止ムルコトヲ許サレタシ

塞比亞民衆ハ昨六月三十八日午後三時莊嚴ナル儀式ヲ以テ「Kosovo」戰ノ紀念日ヲ祝賀シ千三百八十九年ニ戰勝シ土耳古帝「ムラード」ヲ暗殺シタル「セルビア」ノ愛國者「Milos Obilic」及ヒ其友三人ヲ招祭シタリ「オビリック」ハ塞比亞人ノ住居セル所ニ於テハ常ニ國民的英雄トシテ通レルモノナルカ塞比亞政府ノ後援ノ下ニ釀成セラレタル宣傳ト數十年間打續ケル新聞紙ノ煽動トニヨリテ今日ニ於テハ土耳古人ニ代リテ吾々墺洪國人カ傳統的仇敵トシテ目視セラルルニ至リタルモノナリコヽニ於テ爆彈ヲ投シタル「Princip, Gabrinovich」及ヒ他ノ二名ノ「サラエヴオ」ニ於ケル三人ノ青年犯罪者ハ要スルニコノ傳統的精神ノ一ノ體現者ニ外ナラス彼等ハ又外ニ其短銃ヲ以テ參觀者ノ列ヨリ少シ前方ニ離レ居リタルラシキ一人ノ關係ナキ婦人ヲモ死セシメタリカクシテ數十年來「セルビア」ニ於テハ墺洪帝國ニ對スル怨恨ノ種カ蒔カレ居リシカ今ヤ其收穫ハ取入レラレ而シテ其收實ハ殺害ニ外ナラサリキ塞比亞政府ハ午後五時頃右事件ヲ聽取シ得タルニ拘ラス右ノ「オビリック」ノ祝祭ヲハ午後十時ニ至ルマテ公然ト停止セシムルコトヲ爲サザリキ然レドモ其祝祭ハ寒カニ尚長ク繼續セラレタリ而シテ實見者ノ報告スル所ニヨレハ人々ハ歡喜ノ餘リ相抱キ相擁シテ踊リ又萬歲ヲ歡呼シテ吾等ノ長ク待チシ事モ成遂ケラレタリト叫ヒ又カノ併合

ノ怨モ仇讎セラレタリト叫ヒ居リシトイフ

「ギエースル」公使ノ外務大臣宛報告（七月二十一日附「ベルグラード」）大要

「併合ニヨリテ激發セラレタル危機以來墺洪國塞比亞間ノ關係ハ吾國領内ノ塞比亞地方ニ於ケル愛國的敵愾心敵對的行爲及汎塞比亞的精神ノ宣傳等ニヨリテ更ニ惡化セラレ又彼ノ二回ノ巴爾幹戰爭以來塞比亞國ノ成功ハ愈々コノ熱狂的愛國主義ヲ强調セシメタリ「サラエヴオ」ニ於ケル犯罪ハ塞比亞人ノ心ニ唇氣樓ノ如キ感觸ヲ與ヘ彼等ハ彼等カ既ニ期待シ居リタル「ハプスブルグ」帝國ノ覆滅ハ近キニ在リト信シ又南「スラヴ」人ノ住居セル地方カ帝國ヨリ分離シ「ボスニア・ヘルツエゴヴイナ」ニハ革命カ勃發スヘク「スラヴ」軍隊ノ忠誠ハ墺洪國ヲ裏切ルヘシト想像シ居ルモノノ如シ彼等ハ帝國ヲ以テ内外ノ事情ニヨリ無能ニシテ何等强力的ノ行動ヲ執ルコト不可能ナリト思惟シ帝國當局内ニ於テ交換セラルル重大意見モ虛勢ニ過キスト信シ居レリ不徹底ナル手段ヤ小田原評議ノ後ニ決定シ且ツ頽廢的ナル妥協ニ終リタル要求ノ如キハ塞比亞ニ於ケル墺洪國ノ威嚴ヲ損傷シ歐洲列强ノ間ニ於ケル其地位ヲ退化セシムヘキ一大打擊ニ外ナラス」

千九百十二年及十三年兩度ノ戰役ノ疲弊ニモ拘ラスコヽニ初マリヤカテ歐洲大戰ヲ導キタル墺塞ノ戰爭ニ於テ塞軍ハ勇將「Putnik」ノ下ニ奮戰シ千九百十四年八月ニハ侵入軍ヲ擊退シテ「サラ

調一0231
0458
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヴオ」ニ至リシカ第二攻擊ノ際ハ墺洪軍ハ十二月二日「ベルグラード」ヲ略取セリサレト同軍ハ同十五日早クモ同地ヲ撤退スルニ至レリ又勃牙利ハ初メ中立ヲ守リシカ維納政府ノ慫慂ニ依リ參戰ノ決意ヲ爲シ九月、十月ヲ其動員ニ充テテ準備ナルヤ攻擊ニ移リ千九百十五年十一月及十二月ニ塞比亞ノ背後ヲ襲ヒ墺軍カ「モンテネグロ」ヲ侵セル間、勃軍ハ全塞比亞ヲ占領シタルヲ以テ黑山國ノ「ニコヲス」王ハ先ツ伊太利ニ次テ佛國ニ逃レタリ又塞比亞ノ「ピエール」王ハ頑齡ニモ拘ラス常ニ軍ト起居ヲ共ニシ西南「マセドニア」及「アルバニア」ヨリノ退却ニ於ケル其苦心ハ人ヲシテ泣カシムルモノアリ彼ハ千九百十五年十二月軍カ Cordon ニ至ルヤ初メテ之ト分レタリ

其後聯合國ノ協力ニ依リ編成ヲ新ニシ軍需品ノ供給ヲ受ケタル塞軍ハ米國ヨリ來レル「ユーゴー・スラヴ」義勇兵ノ參加ニ勇氣百倍シ千九百十六年 Cordon ヲ發シ復讐戰場ニ赴ムクコトトナレリ「サロニカ」ニ於テ Sarrail 將軍ト合シ又後 Franchet d'Esperey 將軍ト共ニ攻勢ニ移リテ歩一歩敵國ヲ奪還シ勃牙利ノ降伏、「マジヤール」族治下ノ同胞解放ニ盡シタリ

第四期　大戰以後

(イ)「ユーゴー・スラヴ」王國ノ獨立的建設

(一)「クロアート」國ノ獨立

千九百十四年十一月墺洪軍ノ侵入目睫ニ迫ルヤ塞比亞ハ舉國一致內閣ヲ組織シ首相ハ同月二十四日「スツシユ」ニ開カレシ Skoupchtina (國民議會) ニ其ノ政綱ヲ發表セリ此ノ際墺洪國內ノ「ユーゴー・スラヴ」ハ政府ノ極端ナル壓迫ニ俄リ其活動ヲ殺カレシモ其ノ一部ハ國外ニ脫レ千九百十五年五月十五日倫敦ニ「ユーゴー・スラヴ」委員會ヲ設立シ其ノ首領 Ante Trumbitch ハ協商國政府ニ對シ「ユーゴー・スラヴ」問題ニ關スル覺書ヲ提出セリ「ユーゴー・スラヴ」ノ民族的要求カ具體化サレシハ之レヲ以テ嚆矢トス彼等ハ「セルブ・クロアート・スロヴエーヌ」ヲ領土トスヘキ旨ヲ述ブルト共ニ西南歐羅巴ノ平和ハ一ニ「ユーゴー・スラヴ」ノ統一ニ依リテノミ期シ得ヘキヲ論セリ而シテ該委員會カ南北亞米利加ニ於ケル同胞ヨリ資金ヲ供セラルルニ及ヒ其ノ活動ハ倍加シタリ

外交上ノ理由ニ依リ個々ノ行動ヲ執リシ「ユーゴー・スラヴ」委員會ト塞比亞トハ露西亞革命後事態一變スルヤ千九百十七年七月「コルフー」ニ會議ヲ開キ塞比亞關係「ユーゴースラヴ」委員會代表者、塞比亞議員等列席シテ「ユーゴー・スラヴ」統一問題及其實行方法ヲ研究シ其結果同二十一日一ノ宣言書ヲ發表セリ該宣言書ハ塞比亞政府ノ手ヨリ口述書ニ依リテ「コルフー」ノ聯合

調一0231
0459
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國代表者ニ通達セラレタリ其ノ内容ハ先ツ數世紀ニ亙ル彼等ノ努力ヲ述ヘシ後、國名ヲ Royaume des Serbes, Croats et Slovènes ト稱スルコト、立憲君主政體トスルコト、Alphabet Cyrillique 及ヒ Alphabet latin ヲ併用シ同樣ノ效力ノ下ニ各人之ヲ使用シ得ルコト、既ニ確認セラレタル宗教禮拜ハ自由且公然ニ之ヲ行ヒ得ルコト、王國ノ領土ハ三種族密集選擇シテ住居スル地方ヲ包ムヘキコト、「アドリアチック」海ハ總テノ民族ニ等シク開放セラルヘキコトヲ宣明セリ

大戰勃發後與洪國ノ議會ハ開カレサリシカ露國革命ノ後維納ニ於テ二年目ニ開カレコヽニ於テ「ユーゴー・スラヴ」議員ハ合法的ニ共要求ヲ述ブルコトヲ得タリ其ノ開院式ニ當リ（千九百十七年五月二十日）「ユーゴー・スラヴ」倶樂部ノ Dr. Korochetz ハ帝國議會ニ議席ヲ有スル「ユーゴー・スラヴ」議員八名ニ於テ次ノ宣言ヲナセリ

「ユーゴー・スラヴ」倶樂部ヲ組織セル下記署名議員ハ民族主義及「クロアート」ノ有スル權利ニ基キ「ユーゴー・スラヴ」ノ住居セル王國ノ全地方カ外部ヨリノ總テノ權力ノ外ニ「ハプスブルグ」王朝下ニ獨立國ヲ建設センコトヲ要求ス本員等ハ本要求ノ實現ニ全力ヲ盡スヘキヲ宣言ス下記署名人ハ此ノ留保ヲ爲シタル後ニ議會ノ非業ニ參與スヘシ」

宰相 de Seidler カ六月二十七日之レニ反對ノ趣意ヲ洩セル演說ヲ爲セシニ拘ラス「ユーゴー・スラヴ」議員ハ寸時モ其ノ活動ヲ止メス「プレスト・リトオスク」ノ會議ノ際ニモ其參加ヲ求メタリ上記宣言中「ハプスブルグ」家ノ下ニ云々ノ言ハ勿論彼等ノ本心ニアラスシテ之レニ依リテモ與國政府ノ壓迫ト彼等ノ苦衷トヲ察スルヲ得ヘシ千九百十八年九月二十四日「ユーゴー・スラヴ」三族代表ハ Zagreb ニ會シ國民憲章ト稱スヘキモノニ調印シ Korochetz ハ之ヲ十月二日墺太利王國議會ニテ朗讀セリ此ノ宣言ハ五月二十日ノ宣言ト關聯シ「ユーゴー・スラヴ」ニ民族的獨立ヲ與ヘラレ國際聯盟ノ一員トシテ人類系住ノ爲メ努力センコト及ニ平和會議ニ參加セシメラレンコトヲ要求セリ「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ」住民モ Tisza 伯ニ同樣ノ希望ヲ示セル覺書ヲ提出セリ十一月七日「クロアシア」「ダルマシヤ」「アストニア」「スライリア」「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ」「カリンシア」及ヒ「ゴリース」選出「ユーゴー・スラヴ」議員ハ Zagreb ニ會シ「ユーゴー・スラヴ」國民議會ノ構成ヲ決議シ同時ニ實行委員ヲ選出セリ該宣言ニハ三種族ノ代表的人物ヲ網羅セリ即チ Conseil National Slovène, ノ Ante Pavelitch, 「クロアート」農民黨ノ Stiepan Raditch, 塞北亞黨進黨ノ Georgie Krasaïevitch 等之レナリ又實行委員會ハ Mrg. Korochetz, (スロヴェヌ) Dr. Pavelitch (クロアート) Svetozar Privicevitch (塞北亞) ニ依リ構成セラレタリ

該委員會ハ國民宣言中ニ於テ「シャール」帝ノ聯邦組織案ヲ非シ既存ノ政治的國境ヲ參酌スル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調—0231

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

コトナク「ユーゴー・スラヴ」居住地方ヲ今モ民主的國家ヲ建設スベキ旨ヲ宣言セリ

十月二十九日召集セラレタル「クロアート」議會ハ同日千八百六十八年ノ「コムプロミ」ト洪牙利トノ合併ヲ廢止スル旨ヲ決議セリ Privicevitch ノ提案セル該決議理由書中ニ本議會ハ「ユーゴー・スラヴ」民族ノ一部ヲ代表セルニ過キサルヲ以テ新國家形成ヲ決スルノ資格ナキヲ述ベ其ハ今後立法議會ニ依リ決定セラルベキヲ建ヘタリ此ノ獨立宣言後 Zagrelo ニ熾烈ナル愛國的運動起リ其反響ハ Liouobliona ニ又樂テノ「ユーゴー・スラヴ」地方ニ及ヒ Conseil National ノ命ニ依リ總テノ公共建築物ハ「クロアシー」旗ヲ翻シ獨立示業ハ迅速ニ行ハレタリ「スロヴェス」地方ノ「フィウメ」「ダルマシヤ」「ボスニヤ・ヘルツエゴヴィナ」地洪國旨然ハ易々トシテ解決セラレ Zagreb ノ Conseil National ノ權力ハ到ル處熱狂裡ニ認メラレタリ

カクテ「クロアシア」ニ於ケル Honveds (一八四三年「マジヤール」防衛ノタメ編成セラレタル洪牙利兵) ハ之レニ恵頼ヲ習ヒ「シヤール」帝ハ Pola ノ艦隊ヲ之ニ與ヘ千九百十八年十一月當初ヨリ Zagreb ノ Conseil National ハ相當ナル兵力ヲ陸海ニ有スルニ至レリ斯クテ洪國内「ユーゴー・スラヴ」各縣ニ對シテ Zagreb ハ最高權力ヲ振ヒ「スロヴェス」ニハ Liouobliana, 「ボスニア」ニハ「サラエヴオ」ニ地方政府ヲ設ケタリ

(二) 「ユーゴー・スラヴ」王國ノ成立

同月初旬「ユーゴー・スラヴ」ニ於テハ Zagreb 及ヒ倫敦ノ「ユーゴー・スラヴ」委員會代表、他方塞北琅代表トノ間ニ會議開カレ「モンテネグロ」藏相 Milo Vouïovitch モ之ニ參加セリ

塞北琅首相 Pachitch ヲ議長トセル該議會ハ Zagreb, ノ國民評議會ヲ洪國内「ユーゴー・スラヴ」民ノ最高權力ト認メ又其陸海軍ヲ格和國ノ同盟軍ト認メタリ倫敦ノ Yougoslaves 委員會會長 Dr. Trumbitch ハ塞北琅及ヒ聯合國ニ對スル「ザクレブ」評議會ノ代表ト公認セラレタリ會議ハ塞北琅ヲ認ムルコト、全「ユーゴー・スラヴ」地方共同政府ヲ選カニ設クルコト、普通選挙、無記名、平等ノ直接投票ニ依リ選出セラルベキ議會カ新國家ノ憲法ヲ定ムル迄、外交、國防等ノ共同事項ヲ處理スルコト又其ノ時迄塞北琅及洪國ニ屬セル「ユーゴー・スラヴ」地方ノ政治及行政機關ハ雙方共ニ存續スベキコトヲ定メタリ會議ハ十一月七日終了シ Pachitch ハ巴里ニ赴ケル間「ザクレブ」ノ國民評議會代表者ハ副委員長 Pavelitch 及ヒ Pribitchevitch ニ率キラレ「ベルグラード」ニ於テ攝政公「アレキサンドル」ニ謁シ洪牙利領「ユーゴー・スラヴ」地方ノ塞北琅及「モンテネグロ」ニ對スル合併ヲ告ケタリ十二月一日「アレキサンドル」ハ莊嚴ナル儀式ノ下ニ委員一同ヲ引見シ且ツ「ピエール」陛下ノ名ニ於テ「セルブ」「クロアート」及ヒ「スロヴェース」獨立

調—0231

國ヲ塞比亞王國ニ合シ「セルブ・グロアート・スロヴエーヌ」王國トナスコトヲ宣言セラレタリ

尚十二月十七日黑山國代表者ハ「アレキサンドル」ニ謁シ「ニコラス」王ノ失格ト千九百十八年十一月二十八日 Podgoritza ニ開カレタル國民議會ノ黑山國ヲ塞比亞ニ合併スヘキ決議案ヲ提出セリ

（ロ）憲法議會開設

十二月二十一日王國最初ノ內閣成ル「パシッチ」ハ巴里ノ平和會議ニ赴キシヲ以テ首相ノ職ハ Stoyan Protitch 之ヲ占メ又統一ヲ表象スルタメ各種族、各職業、各政見ノ人士ノ間ニ十六ノ椅子ヲ分配セリ「アレキサンドル」ハ十二月二十四日各大臣ノ副署セル宣言ヲ國民ニ發シ王國ノ採ルヘキ新國策ヲ宣明セリ

「Skouptchina 代表、各種族ノ數ニ應セル人民委員會代表及 Voïvodina 及ヒ黑山國代表ヨリ成ル議會ヲ速カニ「ベルグラード」ニ召集スヘシ該議會ハ普通選擧制ニ依リ憲法議會選出ノ爲メ適用スヘキ選擧法案ノ審議ニ從フヘシ前記憲法議會ハ政府ノ提出スヘキ憲法案ヲ審議スヘシ該憲法ハ勿論單一國家ヲ構成スルモノナルカ各地ハ廣汎ナル自治ト政治上ノ自由トニ對スル保障ヲ享有スヘシ」

政府ハ憲法議會ノ成立ニ先チ千八百八十八年及ヒ千九百三年ニ修正セラレタル憲法ニ依リ既ニ塞比亞ニ與ヘラレシ自由ヲ全王國民ニ與ヘ總テノ階級的特權ハ廢セラレ營業ノ自由及平等ハ保障セラレ貧農ニハ土地ヲ與ヘ農村問題ニ關シテハ委員會ノ設置ヲ爲シタリ

千九百十九年三月一日王國第二議會「ベルグラード」ニ召集セラル這ハ前出セル處ニ依リ明カナルカ如ク正規ノ選擧ニヨルモノニ非スシテ任期終了セル塞比亞議員ト新領土代表者トヨリ成リシモノナリ

開院式ニ當リ「アレキサンドル」ハ王國ノ成立ハ「ユーゴー・スラヴ」民族年來ノ希望ノ成果ニシテ其ノ平和會議ニテ承認セラルルヲ望ム旨ヲ述ヘタリサレト「ユーゴー・スラヴ」民族ノ要求ハ少クトモ「アドリアチック」海岸ノ地點ノ歸屬ニ關シ列國トノ關係上大ナル障害ニ際會セリ夫ハ卽チ英佛カ伊國ニ對スル倫敦協定ニ拘束セラレタルカ爲メニシテ米國側ハ祕密條約否認ノ立場ヨリ之レヲ否定セントセシカ其目的ヲ達セス而シテ結局塞比亞カ伊太利ト協定ヲ得ル迄ニハ巴里駐劄公使タリシ Milenko Vesnitch ノ勞ニ倚ルコト大ナリキ而シテ千九百二十年十一月十二日ノ「ラッパロ」條約ハ「フイウメ」「ダルマシア」ノ一部「ゴリス」「イストリア」「カルニオール」ノ一部放棄ヲ王國ニ强ヒシカ殆ント全「ダルマシア」海岸ヲ伊太利ニ與ヘシ倫敦協定ヲ購フニハ已ムヲ

調—0231
0462
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

得サル處ナリシナルヘシ

憲法議會ノ選擧ハ千九百二十年十一月二十八日ニ行ハレタリ第一議會カ選擧法ヲ可決スル迄一年有半ヲ費セルカコハ一方伊太利トノ紛爭アリシタメニシテ又他方從來分離シ居タル各地方代表ニ統一團結ノ習慣ヲ得セシメンカ爲ナリシナリ然ルニ選擧ノ結果ハ意外ニモ政權ヲ握レル急進黨ト民主黨ノ敗北トナリ兩黨ハ之ヲ合スルモ尙小數ニ止マレリ卽チ四百十九ノ議席中百九十ヲ得シニ過キサリシカ反對黨タル Stiepan Raditch ノ農民黨ヤ塞比亞及「マセドニアー」ノ共產黨「ポスニア・ヘルツエゴヴイナ」ノ回教徒カ多數ヲ擁スルコトトナリシナリ

サテ「ユーゴー・スラヴ」王國建設ニ當リ「ユーゴー・スラヴ」統一ソノモノニ就キテハ意見ノ相違ナカリシモ其國家ノ形式ニ付テハ議論岐レテ大約次ノ如キ意見アリタリ

(一) 塞比亞ノ急進黨ハ大塞比亞主義ヲ奉シ舊墺洪國トノ聯邦主義ヲ排セリ

(二) Zagreb ノ Coalition Serbo-Croate ハ統一ハ之ヲ欲セシモ聯邦ヲ組織シ其ノ組織分子ハ各其ノ歷史的人格ト傳統的國境トヲ保有シ唯々軍事外交ノ如キ特種事項ヲ共同處理セントセリ

(三) 「クロアート」共產黨ハ統一ハ之ヲ認ムルモ塞比亞王ノ承認ヲ拒ミ「ユーゴー・スラヴ」共和國ヲ建設セントセリ

又國外ノ意見トシテハ墺洪國ノ消滅ヲ喜ハサルモノアリ Saint-Synode ノ有力者ハ「ユーゴー・スラヴ」ノ統一ニ依リ塞比亞カ其正教徒國タル特質ヲ失ハシコトヲ恐レ又法王廳モ「クロアート」ト「スロヴエーヌ」カ塞比亞ト合シ其ノ「カトリック」タル特質ヲ失ハンコトヲ恐レ「カトリック」ト正教ノ二教ヲ樹立セントセリココニ於テ多數黨ノ缺除ト各政黨ノ異見ノ爲政府ハ難關ニ遭遇スルコトトナリタリ

憲法議會ノ開院式ハ千九百二十一年一月十四日「アレキサンドル」主宰ノ下ニ行ハレシカ議會ハ二月一日ヨリ四月九日迄休會シ四十名ノ委員ヨリ成ル憲法委員會ヲシテ各案ヲ取捨シ議會ノ討議ニ付スヘキ國家組織大綱ヲ定メシメタリ其ノ案タルヤ多數アリシカ其主ナルモノハ Protitch カ首相時代英國憲法ノ精神ニ則リ編セルモノニシテ各地方ニ其歷史的國境ト自治ヲ許シ立憲王政ニシテ君主ノ政治的權能ハ極少ニ止メテ之ヲ責任內閣ノ手ニ歸セシメムトスルニアリ又他ノ一ハ千九百二十年「ヴエスニッチ」カ首相タル時ニ創成シ後「パシッチ」カ改正シタルモノニテ强度ノ中央集權ニヨリ半ハ絕對君主政ヲ望ミシモノナリシカ其選ニ上リシハ後者ナリキ而モ議會ノ討論ニ付セラルルヤ激論盡キス多數ヲ擁セサリシ「パシッチ」ハ討論ヲ打切ランカ爲メ自己ノ案ヲ二百條ヨリ八十六條ニ削減シタリ之ニ對シ反對黨ハ該案ハ骨拔案ニシテ新國家ノ基礎法トシテ取ルニ足ラストナセリ他ニ「クロアート」案「スロヴエーヌ」案アリシカ共ニ其政綱ヲ具體化セルモ

調一0231
0463
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノニシテ「ユーゴー・スラヴ」ノ各地方ニ自治ヲ許シ聯邦トセントセルナリ又其他ニ Trumbitch 及 Club yougoslave ハ一種ノ妥協案ヲ有シタリ

三ケ月間此等ノ案ハ委員會ノ審査ニ付セラレシカ前出ノ如ク「パシッチ」案激論ノ末社會黨及農民黨ノ爲メ一度削減セシモノヲコヽニ八十六條ヨリ百四十二條ニ增加シ千九百二十一年六月二十八日卽チ Kossovo 戰五百三十二年祭ニ幸フシテ可決セラルルコトナリタリ此ノ日ハ聖俗ニ Vidovdan 卽「寡婦ノ日」ト呼ハルルヲ以テ此ノ憲法モ Vidovdan ノ憲法ト稱セラレタリ因ニ本憲法ハ三十五票ニ對スル二百二十三票ヲ以テ可決セラレタリ

贊成側、民主黨、急進黨ニ屬スル「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ」ノ回教徒

反對側、民主社會黨、セルブ農民黨、及ヒ少數ノ社會黨共產黨

此ノ票決ノ事情ヲ了知センカ爲メニハ三十五票ノ反對ノ他ニ百六十一票ノ棄權アリシヲ忘ルヘカラス此ノ棄權者ハ討論ノ終リニ斯カル憲法ニ對スル責任ヲ負フ能ハストシテ議場ヲ去リシモノニシテ其ノ中ノ五十二名ハ「ラデイッシ」黨ニ屬スルモノニシテ初メヨリ立法議會ノ事業ニ參セサリキ而シテ四百十九ノ議席ヲ有スル該議會ノ定則數ハ二百十名ナルヲ以テ纔カニ十三票ノ多數ヲ得タルニ過キス

議會ニ於ケル投票數如何ニ拘ラス民衆ハ歡呼裡ニ之ヲ迎ヘ同二十八日夜直ニ之ヲ發布シ翌日攝政公ハ之レニ對スル忠誠ヲ誓ヘリ

第三　結　論—內治、外交及經濟ノ現在及將來

王國人口ノ七割五分ハ「ユーゴー・スラヴ」族ニシテ「マセドニア」人及東「イストリア」人、伊太利人ヲ除ケハ他ノ少數散在セル羅馬尼人、「アルバニア」人、伊太利人アルニ過キス何等他日ノ禍因トナルコトナカルヘシ此ノ構成種族ノ點ヨリ見レハコノ新興國ノ基礎ハ比較的鞏固ナリト云フコトヲ得ヘシ

然ルニ伊太利殊ニ其國民主義ノ新聞紙ハ新王國ニ對スル反感ヨリ其宗教上ノ種類ノ差ニヨリ其基礎弱キヲ說クモノアリ又一部米國人中ニハ或ハ王國カ其國籍ヲ毫モ欲セサリシ「サヴ」河以北ノ獨人、洪牙利人及「マセドニア」人「スラヴ」人ヲ含ム點ヨリ又或ハ土地分配ヲ主張スル農民黨ノ中央集權主義者及聯邦主義者ノ併立ノ點ヨリ見テ同樣ノ批評ヲナスモノアリ思フニ伊太利側ノ非難ハ「ユーゴー・スラヴ」カ數百年間懷キ來レル統一ノ憧レヲ無視セル皮相ノ見ニシテ單ニ政治的國境內ニ集合セルモノニ對シテハ或ハ此ノ言ノ妥當ナルコトアランモ數世紀ニ亙ル試練ヲ經來

調—0231
0464
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

レル彼等ノ前ニハ一顧ニ値セス殊ニ彼等ノ間ニハ宗教的熱情存在セス又既ニ Strossmeyer ノ昔ヨリ大戰後ニ於テ迄モ宗教上ノ差別ヨリ生スル問題ハ少クトモ形式的ニハ解決セラレタリ此ノ種ノ誹謗ハ根據乏シキニ關シテハ千九百十七年八月十七日ノ Corriere della Sera モ之ヲ承認セリ但シ一部米人ノ批評ニシテ中央政治的見地ヨリスルモノハ根據相當ニアリト云フヘシ特ニ統一王國憲法カ極メテ少數ノ差ニテ可決セラレタルコトナトハ非觀論者ノ一好材料タルヘキカ農民黨ノ土地分配ニ關シテハ千九百十八年十二月二十四日ノ「アレキサンドル」ノ宣言後貧農ニハ無償ニテ土地ヲ與ヘ又農村問題ニ關シテハ委員會ノ設置ヲ見タリ

曾テ土耳其治下ニ惡政ヲ歎シタル「ユーゴー・スラヴ」一部ハ更ニ墺洪國政府ノ殺人的惡政ニ泣カザルヲ得サリキ全體トシテ見ルモ其ノ大部分ハ農民ニシテ貴族等ノ指導階級ハ數多ノ戰鬪ニ於テ仆レタルモノ多シココニ於テ何等政治的自治ヲ有セス又經濟的ニモ他民族ニ屈從スルヲ餘儀ナクセラレ來レル彼等カ極端ナル壓迫ノ後今日自由ノ天地ニ來リ其ノ採ルヘキ道ニ迷フハ見易キ所ナリ

黑山國ハ其ノ建國ノ當初ヨリ宛然冬眠狀態ヲ續ケテ何等爲ス處ナク文化的向上ニ努メサリシカ「ユーゴー・スラヴ」希望ノ的タリシ塞比亞トテモ Michel 公ト Pierre 王トヲ除ケハ常ニ專横ヲ喜

ビシ凡庸ノ主ヲ戴ケリ「パシッチ」ト「ヴエニゼロス」トヲ除ケハ巴爾幹ニ人ナシトサヘ歎セラル、ニ非スヤ「ユーゴー・スラヴ」建國ノ初メヨリ其ノ政治家ニ政見ノ一致ヲ求ムルハ酷ナリト云フヘク且政見ノ絶對一致ハ必スシモ多ク存セス又政見ノ不一致常ニ國家ノ分裂ヲ意味セス否彼等ハヨリ好キ世界ヘ生レ出ツル惱ミヲ感シツツアルナリ

「ユーゴー・スラヴ」ハ農國ニシテ其輸出ノ九割ハ麥、梅、家畜ナリ工業ハ旺ナラントスル機運アルモ現在ノ處殆ント云フニ足ラス只廣大ナル森林ト重要ナル銅、鐵、石炭鑛ヲ有スルヲ以テ國民ノ努力如何ニ依リテハ此ノ方面ニモ他日大ヲナスコトアルヘシ運輸機關ハ不完全ニシテ特ニ鐵道ハ速カニ改善ヲ要スルモノアリ Alpes dinariques ハ「アドリアチック」ト內地トノ連絡ヲ阻ミ此ノ障壁ヲ破レハ只「フイウメ」南方ニ於ケル三線ノ狹軌アルノミ正軌ノ一線ハ「フイウメ」正面ニ於テ之ヲ横切ルモ未タ以テ內地ノ商業ノ需要ヲ充タスニ足ラス又「フイウメ」ノ自由使用タルヤ之モ暫定的ナルヲ以テ「ボスニア」ノ狹軌ヲ廣軌トナシ「ベルグラード」「スパトラ」間ニ復線ヲ設クルコト及「ベクグラード」—「カツタロ」間ノ線モ一考ニ價スヘシ此等諸線カ完成スル時「ユーゴー・スラヴ」ハ交通上伊及希臘國ヨリ獨立スヘシ墺太利ヤ洪牙利ヲ警戒セサルヘカラサル王國ハ勃牙利トノ友好關係ヲ要スルヲ以テ之ト聯邦ヲ爲サントスル案ハ「ソフイア」及「スロヴエヌ」

調—0231
0465
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「クロアート」人士間ニ相當力アルモ中央集權的ナル塞比亞人ハ之レヲ喜ハサルモノ多シ然レトモ此ノ案ニシテ實現センカ彼等ハ已往幹ノ統一安定ヲ其手中ニ收メ一躍强國ノ班ニ入ルヘク又此ノ併合ハ「ザロニカ」ト Corville ノ喪失ヲ償ルル希臘ノ爲メニモ問題トナラサルヘシ如何トナレハ伊太利ニ備フル所アル「ユーゴー・スラヴ」王國ハ希臘トノ友好關係ヲモ必要トスレハナリ

ニ(ロ)希臘ト「ユーゴー・スラヴ」王國トノ利益一致點ヲ畢クレハ

(二)、兩者共ニ「アルバニア」ノ分割ヲ欲スルコト並ニ

(二)、兩者共ニ伊太利人ノ Valona 安住ヲ防クヲ要スルコトニアリ

然レトモ「アルバニア」自身ハ勿論塞領タルコトモ伊希領タルコトモ欲セス且ツ英佛ハ其獨立ヲ欲セルカ故ニ第二點ハ問題トナラサルヘシ只王國カ希臘及「スラヴ」族ヲ惧ルル英ニ扶ケラレタル伊太利共ニ「アドリヤチツク」海ニ對峙セン時勃牙利トノ接近ハ實現スルニ至ルヘシ

王國ト佛國トノ交情ハ大戰前ヨリ頗ル厚キモノアリ塞比亞人ニシテ佛ニ遊學スルモノ頗ル多ク Guerre des Forces ニ際シテハ佛國ハ多大ノ同情ヲ小王國ニ寄セタリ

「ラツパロ」條約ハ「アドリヤチツク」問題ヲ解決シタルニ非ス戰期ノ長ヒキシ理由トシテ千九百十四年四月二十六日ノ倫敦協定ノ與フル所ヨリ以上ヲ要求セル伊ハ講和會議ニテ其容ル所トナラス「チツドニー」ノ如キハ千九百十九年七月七日ノ最高會議ニ「聯合國ハ大戰後ニ於テ大國ヲ討ダンドセリソハ伊太利ト獨逸ト是也」ト痛憤シ或ハ伊ノ四圍ハ皆之敵也ト叫ビ「オルランド」ト「ソンニー」ハ世界的反伊團結ニ際會セリト言ヒ又伊ハ不正當ニ苦メリト歎シテ總テノ問題、殊ニ對「ユーゴー・スラヴ」問題ハ大ナル惡化ヲ見其ノ反感熾烈ナルモノアリタリ墺洪國ハ「國」ナリシモ「國民」ニアラス從而彼ト必スシモ利害一致セサリシ伊太利モ其主張如何ニ依リテハ之ト手ヲ携ヘテ行クコト必スシモ困難ナラサリシカ其後ニ生セル王國ハ國民的國家ニシテ其ノ肉ヲ殺カントスレハ彼ハ悲鳴ヲ擧クヘク又決死的ノ抵抗ヲナスヘシ殊ニ伊太利人ニ取リテハ大戰中「ハプスブルグ」旗下ニ於テ彼等ニ抵抗セシ「クロアート」人ヲ一旦彼等カ塞比亞ニ併合セラルルヤ之ヲ同盟者トシテ待遇セサルヘカラサルハ其難シトスル處ナリ又伊太利ニ於テハ新王國カ伊太利ヲ目シテ其主ダル敵トナシ此ノ敵愾心ニ依リテ三種族間ノ壞裂ヲ防キ其團結協同ニ資セリトノ念深ク其腦裡ニ刻セラレタリ而シテ又他方倫敦「ユーゴー・スラヴ」委員會ハ千九百十五年五月十五日既ニ宣言ヲ出シ「如何ナル犧牲ヲ拂フモ「アドリアチツク」岸ヲ救ハサルヘカラス」ト叫ヒタリシカ以上ニ依リテ伊ト「ユーゴー・スラヴ」トノ反噬カ如何ニ壓ナルヤヲ察スルニ難カラサルナリ大戰中墺軍中ノ「ユーゴー・スラヴ」分子ハ露國革命後倫敦密約カ公表セラルルヤ伊ヲ憾ムコト甚シ

調一0231
0466
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ク獨立運動ニ關シテモ墺國ノ絆ヲ脱シ反ツテ伊國ノソレニ陷ラサランコトヲ注意セリココニ於テ此ノ點ニ注目セル伊國政府ハ Caporetto ノ敗戰後半官的ニ是等「ユーゴー・スラヴ」人ト交渉ヲ開キ二民族親善關係增進ノ爲總テノ領土的紛爭ニ關シテハ其ノ重大利益ヲ各々害セサル範圍ニ於テ之ヲ民族主義ニヨリ解決スヘキコトヲ約シタリ斯クシテ Vilsovitch 大尉 Zagreb, Grubitch 少佐等ノ活躍トナリ墺洪軍中ノ「ユーゴー・スラヴ」分子ニシテ進ンテ伊軍ニ投降スルモノ多カリシカ伊ノ巴里ニ於ケル態度ハ全ク之レヲ裏切リタルモノナリ

抑モ「アドリアチック」海ノ自由ハ巴爾幹諸國ノ獨立、民族自決主義問題ニ滿足ナル解決ヲ與フルモノナルカ之レカ爲メニハ沿岸諸民族殊ニ伊ト「ユーゴー・スラヴ」ト平和的協力ヲ必要トス然ルニ右ハ前出セル處ノ如ク頗ル困難ナル狀態ニアルナリ伊太利ハ常ニ巴爾幹進出ト地中海上ノ覇權ヲ希フテ止マス例ヘハ「ソンニノ」氏ハ千九百十五年四月八日卽チ倫敦協定ニ先ツ僅カニ二週日墺ニ Frontin ノ割壞ト Isonzo 方面ノ國境改定ヲ求メタリ然ルニ此ノ野心ヲ察知セル「ユーゴー・スラヴ」代表者ハ同月中羅馬ニ來リテ新聞記者、議員等ト竟見ノ交換ヲ爲シ更ニ當路者ト交渉セントシタリシカ伊國政府ハ之ヲ避ケテ其事ナラサリキ之レ伊カ平和會議ノ席上ニ於テ好キ分ケ前ニ接センカ爲メニ外ナラス而シテ伊カ「アドリアチック」海ノ支配卽チ其東海岸要求ノ理由トシテ擧クル處ハ大體次ノ如シ卽チ（一）伊カ同地方ヲ領シタリシ羅馬「ヴェニス」ノ後繼者タルコト（二）現在「トリエスト」ヲ除キテハ同地方ニ「ユーゴー・スラヴ」住民ノ多數ヲ占ムルコトヲ認ムルモ彼等ハ單ニ新シキ移住民ニ過キサルコト（三）戰略上ノ理由トシテ「ユーゴー・スラヴ」側ヨリノ挑戰ニ備フルコト（四）該地方ヲ占領シテ獨墺ノ侵入ニ對セントスルコト是ナリ然レトモ史上ノ詮索ハ兎モ角「ユーゴー・スラヴ」人カ七世紀ノ昔ヨリ同地方ニ定住セルハ歷史ノ示ス處ニシテ且ツ特ニ注意スヘキハ伊太利人カ爾後增加セルニ對シ「ユーゴー・スラヴ」人ノ却テ減少セルコト之ナリ伊太利ノ一統計ニ依レハ千七百三十五年「トリエスト」ニ三千八百六十五人ノ伊人（五割二分）ト三千三百八十五人（四割八分）ノ「ユーゴー・スラヴ」人トアリシニ千九百十二年ニハ十一萬八千九百十九人ノ伊人（六割七分）ト五萬九千三百十九人ノ「ユーゴー・スラヴ」人（三割三分、獨人ハ之ヲ除ク）トアリキ「イストリア」ニ於テモ亦同シ又伊太利カ戰略上ノ理由ヨリシテ多數異民族ノ聲ヲ無視スルハ暴論ト云フヘク海軍カ殆ント皆無ニシテ人口僅カニ千四百萬ノ新王國ヲ人口四千萬ノ伊太利カ果シテ然カク恐ルルニ足ルヘキカ疑ハサルヲ得サルナリ

又獨墺ノ盾タラント云フモ先ツ之ヲ防クヘキモノハ彼等ニアラスシテ「ユーゴー・スラヴ」人ニ外ナラス依是觀是伊太利ノ眞意ハ如上ニアラス其ノ帝國主義的方針ニ外ナラサルナリ千九百十五

調一0231
0467
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年四月三十八日本問題ノ伊國内ニ喧シキ時 L'Idea Nationale ハ無邪氣ニモ伊太利ノ本心ヲ吐キテ曰ク『地中海ニ吾人ノ總テノ努力ト注意トヲ集中スル爲メ「アドリアチック」ト問題ヲ決定的ニ解決セサル人ガラス』ト又『地中海ハ伊太利ノ海タラサルベカラス』ト又「ミラン」ニ於ケル「ムッソリニ」ノ演說ニ見テモ其ノ意圖ヲ察スルコト難カラス而シテ之ニ對スル「ユーゴー・スラヴ」ノ反抗心ハ固ヨリ激シク千九百十五年五月三十一日「ダルマシア」ノ Niso Jedinstovo 氏ハ『伊太利ノ支配下ニ屬センヨリハ支那ノ屬領タランノミ』ト絶叫セルニヨリテモ明ナリカクテ本問題タルヤ其ノ溯ル處遠ク又コレ自然ノ勢已ムヲ得サル處ナルカコトニ新興王國ノ將來ヲトスルニ其戰勝ニ醉フテ東閣ノ專横ヲ許スコトナク又戰爭ノ準備ニノミ急ナリシ人民ヲシテ平和的發展ヲ計ラシメンカ彼等ノ前途正ニ洋々タルモノアリト云フベシ

調一0231
0468
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp